

平成 21 年 6 月 6 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19530469
 研究課題名（和文） ローティーンファッションとメイクにアーケードゲームがもたらす効果の社会学的研究
 研究課題名（英文） An Analysis of the Sociological Effect on Teenaged Costume and Cosmetics which Amusement Arcade Games Brought
 研究代表者
 栗田 宣義（KURITA NOBUYOSHI）
 武蔵大学・社会学部・教授
 研究者番号：10205198

研究成果の概要：実験群たるローティーン女性ならびに統制群たるハイティーン女性全般においてファッションとメイクへの意気込みと傾倒は大きく、当初予想していたアーケードゲームの影響に加えて、とりわけ女性ファッション誌を中心とするマス媒体のもたらす培養効果は無視しえなく、それらを担い手とした社会化によって「ファッション系統」と呼ぶべき、好みのファッション誌と好みの化粧服飾がリンクした選好の類型が生成、保持されていることが統計的に確認された。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,800,000	1,140,000	4,940,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：ファッション、メイク、ローティーン、女性ファッション誌、アーケードゲーム、パネル調査、内容分析

1. 研究開始当初の背景

ローティーン向けの女性ファッション誌やローティーン向けのファッションとメイクを素材としたアーケードゲームなどポップカルチャーにおけるマス媒体のもたらす社会的かつ文化的効果の査定とそれらの意義解明が、メイクの低年齢化や審美医療の若年層受容など近年見られる顕著な社会変容との連関において、学界や知識層のみならず、社会全般にとって重要事となった趨勢を受

け、本研究は企画、実施された。

2. 研究の目的

若年層における「キレイ」志向もしくはルックス至上主義的趨勢をポップカルチャーなどとの選択的接触を介して培養される文化的結晶と捉え、その形成過程を計量社会的視角から系統的に分析することが本研究の主たる目的であった。

3. 研究の方法

(1) 二波からなる質問紙法に基づくパネル調査(N=633)

(2) 女性ファッション誌やアーケードゲームなどに係わるマス媒体の内容分析

4. 研究成果

二波からなるパネル調査とマス媒体の内容分析の知見要約を以下に記す。

(1) 調査対象となった都内在住の実験群たる10歳から15歳までの小学生、中学生からなるローティーン女性ならびに統制群たる16歳から18歳までの高校生からなるハイティーン女性全般においてファッションとメイクへの意気込みと傾倒は多大なるものがあつた。

(2) 当初予想していたアーケードゲームの影響に加えて、とりわけ女性ファッション誌を中心とするマス媒体のもたらす培養効果は無視しえなく、それらを担い手とした社会化の存在を確認した。

(3) (2)の事態は「ファッション系統」と呼ぶべきものであり、女性ファッション誌への選択的接触と、化粧服飾に係わる行動文化が整合的に連関した「ストリート系」「カジュアル系」「お姉系」「ギャル系」などと命名されるべき選好の類型が、若年齢層においても、その萌芽が生成し、保持されていることが統計的に確認された。

(4) (3)で述べた「ファッション系統」に係わる知見を導いた基本ロジックと仮説群、作業仮説群、統計資料を、栗田(2009)における記述に基づき、以下、簡潔にその要点を記す。

①仮説群

仮説 A(マス媒体分類)ファッション誌は複数の群に分類されうる。

仮説 B(読者層同質傾向)ある一つのファッション誌を支持する読者層はコスチュームとメイクに係わる行動において似通っており、同質傾向を示す。

仮説 C(「ファッション系統」再現)マス媒体分類によって弁別されたある一つの群に含まれる複数のファッション誌の読者層は、読者層同質傾向によって析出されたコスチュームとメイクに係わる行動パターンにおいて、同様の類似した傾向を示す。即ち、マス媒体分類と読者層同質傾向は整合性を保ち、「ファッション系統」は再現される。

仮説 A(マス媒体分類)、仮説 B(読者層同質傾向)、仮説 C(「ファッション系統」再現)は分析的かつ論理的な正確さを保つために厳密な表現を心掛けている。しかしながら、科学的ではあるものの、些か直感的な理解にはそぐわない。よって、これら仮説群の意図する具体的なプロットもしくは筋書を、以下に仮想例として記す。

プロット A)複数のファッション誌を固有の属性から一定の統計的手続きを経て仕分けした結果、『CanCam』『JJ』『ViVi』が一つの群として括られたとしよう。この群を仮に「お姉系」と命名する。プロット B)『CanCam』の読者層は、そうでない人と較べて、例えば、メイクにかかる時間やコスチュームの支出金額などが似通っており同質的である。プロット C)メイクにかかる時間やコスチュームの支出金額などの同質性は、『JJ』の読者層および『ViVi』の読者層においても共通しており、「お姉系」に分類されたファッション誌を支持する一群の人びとは、コスチュームとメイクに係わる行動において、総体として類似しており、当初の分類を再現している。これこそが「ファッション系統」と呼ぶべきものである。

プロット Aは仮説 A(マス媒体分類)、プロット Bは仮説 B(読者層同質傾向)、プロット Cは仮説 C(「ファッション系統」再現)の意図を汲んでおり、勿論、分析の対象は「お姉系」のみに留まるものではなく、「ストリート系」「カジュアル系」「ギャル系」など複数の「ファッション系統」をその射程に収めてゆく。

②作業仮説 A(マス媒体分類)とその確認

レスポデントとなった実験群たるローティーンならびに統制群たるハイティーン女性たちが、ふだん読むファッション誌の数は平均で1.81冊、そして、2冊以上読む人が40.76%と全体の4割にも達する。3冊以上読む人は28.44%で4人に1人以上、4冊以上読むという強者も17.38%、なんと6人に1人以上の割合で存在する。このようにレスポデントが重複読書している事態を応用し、ファッション誌の分類が可能になる。

単純な例示を試みてみよう。ある人が『PS』『SEDA』『mini』(ストリート系?)を、次の人は『non-no』『mina』(カジュアル系?)を、もう1人の人は『CanCam』『JJ』『ViVi』(お姉系?)を、最後の人は『egg』『Popteen』『Cawaii!』(ギャル系?)を読んでいるとする。そして、レスポデントの大勢がこれら四系統の読書パターンの何れかに合致するとするならば、重複読書の統計的な姿から、ファッション誌がカテゴライズされうるといいうことだ。

以上を作業仮説 A(マス媒体分類)に纏める

こととする。作業仮説 A は、言う迄も無く、先述の仮説 A をデータセットの統計的操作に適した水準に変換したものである。

作業仮説 A (マス媒体分類) ファッション誌は、レスポンドの重複読書に基づき、複数の群に分類される。

作業仮説 A (マス媒体分類) は、ファッション誌 26 誌を「ふだん読んでいる」か否かを尋ねた質問紙に基づく 26 変数を用いて確認する。その手順を以下に示す。

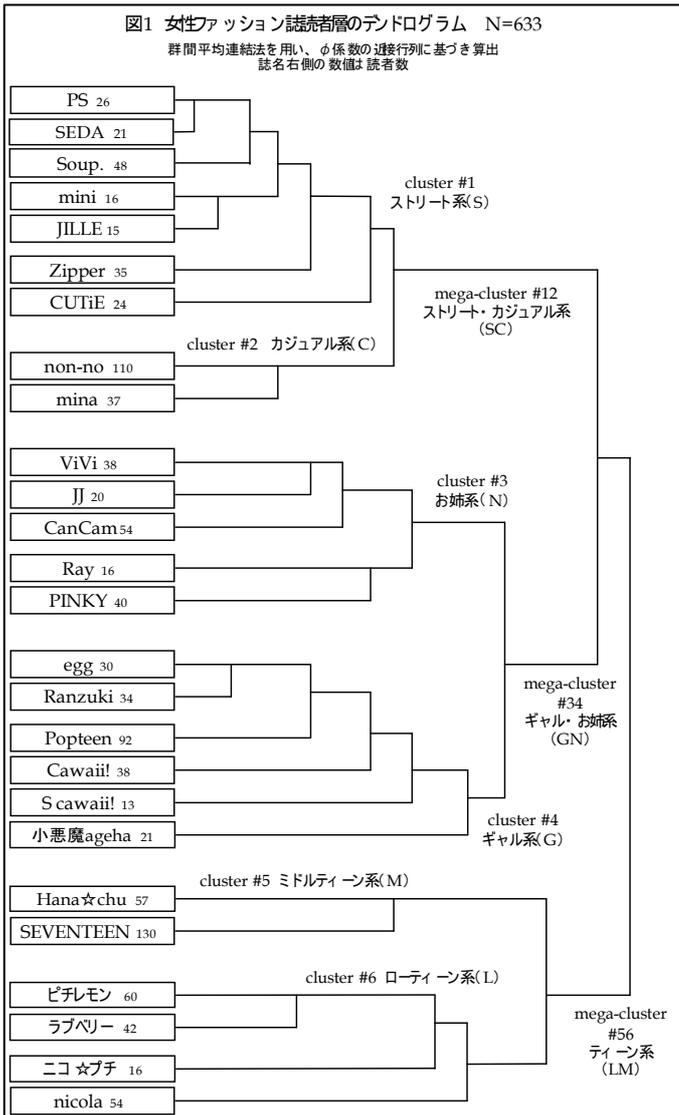
数の群を確定する。

図 1 のデンドログラムから、第一に、『PS』(26 名)と『SEDA』(21 名)が最近接し、それに『Soup.』(48 名)が繋がり、『mini』(16 名)と『JILLE』(15 名)からなる小さなクラスターが合流し、『Zipper』(35 名)、『CUTiE』(24 名)が順に連なった cluster#1 ストリート系(S)、第二に、『non-no』(110 名)と『mina』(37 名)の 2 誌のみからなる cluster#2 カジュアル系(C)、第三に、『ViVi』(38 名)と『JJ』(20 名)が繋がり、それに『CanCam』(54 名)が連なり、『Ray』(16 名)と『PINKY』(40 名)からなる小規模クラスターが合流した 5 誌からなる cluster#3 お姉系(N)、第四に、『egg』(30 名)と『Ranzuki』(34 名)が核となり、それに『Popteen』(92 名)、『Cawaii!』(38 名)、『Scawaii!』(13 名)、『小悪魔 ageha』(21 名)が順に連なった 6 誌からなる cluster#4 ギャル系(G)、第五に、『Hana☆chu』(57 名)と『SEVENTEEN』(130 名)の 2 誌のみからなる cluster#5 ミドルティーン系(M)、第六に、『ピチレモン』(60 名)と『ラブベリー』(42 名)が核となり、それに『ニコ☆プチ』(16 名)と『nicola』(54 名)が順に連なった 4 誌からなる cluster#6 ローティーン系(L)といった、一般での理解にも重なる、6 つのクラスター、則ち、ファッション誌 26 誌を分類する 6 つの群が析出された。ここより、作業仮説 A (マス媒体分類) 「ファッション誌は、レスポンドの重複読書に基づき、複数の群に分類される」は確認されたといえよう。

③作業仮説 B (読者層同質傾向) とその確認
 前述のクラスター分析で用いた 26 誌について、本節では、個別各誌読者層のコスチュームとメイクに係わる行動の同質性について検討する。ここでは、とりわけ、実験群たるローティーン女性ならびに統制群たるハイティーン女性がコスチュームとメイクへの意欲やそれにかかる金銭に着目し、以下の 4 変数を用いる。第一に、メイクにかかる時間、第二に、ヘアメイクの一環としてのヘアカラーやブリーチの頻度、第三に、服や靴、アクセサリなどに支出する金額、第四に、おしゃれの一環としての制服や基準服(標準服)の着崩し、である。

第一の変数は、毎日のメイクにかかる時間を分刻みで尋ねたものを、「メイク時間」と定義する。第二の変数は、ヘアカラーもしくはブリーチの頻度を尋ねた上で年間での回数に変換し、それを「ヘアカラー・ブリーチ頻度」として定義する。第三の変数は、服や靴、アクセサリなどに 1 ヶ月あたり支出する金額を「コスチューム支出」として定義する。第四の変数は、学校の制服や基準服(標準服)のスカートを短くするなど、着崩すことがあるか否かを尋ねた質問の選択肢「制服や基準服

図1 女性ファッション誌読者層のデンドログラム N=633
 群間平均連結法を用い、φ係数の逆接行列に基づき算出
 誌名右側の数値は読者数



まず、26 変数について「ふだん読んでいる」に 1 の値、「それ以外」に 0 の値を与えた論理変数に変換した上で、2 値変数の関連尺度であるファイ係数を算出する。次に、このファイ係数の近接行列を用いて、群間平均連結法に基づき、26 変数をクラスター分析によって分類する (図 1 を参照せよ)。最後に、クラスター分析によって描かれるデンドログラムから、26 誌が含まれるクラスター、つまり複

(標準服)ではない」は非該当として分析から除外した上で、「着くずすことはない」「ある程度着くずしている」「かなり着くずしている」「元のかたちがわからないほど着くずしている」の四段階からなる選択肢セットを平均値 50、標準偏差 10 に変換した標準得点として定義する。そして、この、おしゃれの一環としての制服や基準服(標準服)の着崩しを、以降、「制服の脱構築」と呼ぶ。

作業仮説 B(読者層同質傾向)ある一つのファッション誌を支持する読者層は、「メイク時間」「ヘアカラー・ブリーチ頻度」「コスチューム支出」「制服の脱構築」において似通っており、同質傾向を示す。

作業仮説 B(読者層同質傾向)は、標準偏差や変動係数など散布度、則ち、ばらつき(dispersion)の観点から、「メイク時間」「ヘアカラー・ブリーチ頻度」「コスチューム支出」「制服の脱構築」各変数における分布の拡がりの程度がファッション誌個別各誌読者層とそうでない人びととの間で差異があるか否かによって確認する。

まず、『PS』『SEDA』『Soup.』などファッション誌個別各誌読者層における「メイク時間」「ヘアカラー・ブリーチ頻度」「コスチューム支出」「制服の脱構築」の分布の拡がりを示す散布度としての標準偏差を算出する。標準偏差は平均値の大きさに依存する故、サブグループ毎の比較に備え、平均値で除したその商である変動係数に変換する。次いで、ファッション誌個別各誌読者層とそうでない人びとの変動係数に差異があるか否か、則ち、個別各誌読者層が、「メイク時間」「ヘアカラー・ブリーチ頻度」「コスチューム支出」「制服の脱構築」について、そうでない人びとと較べて似通っているか否かを確認するために、個別各誌読者層の変動係数を分母に、そうでない人びとの変動係数を分子に置き、それに 100 を乗じた同質指数を算出する。同質指数は、その定義上、比較するサブグループの変動係数が等しければ、100 を示す。分子が分母より大きければ、則ち、個別各誌読者層の変動係数がそうでない人びとの変動係数より小さければ、100 を超える。その反対であれば、100 を割り込むことになる。換言するならば、同質指数が 100 より大きければ、ファッション誌個別各誌読者層はそうでない人びとと較べて似通っており、100 より小さければ、逆にばらつきが大きいということだ。以降、この指数が 150 以上であれば同質的、67 以下であれば、非同質的という規準を設定し、判定する。

なお、同質指数を用いた分析での、比較のためのサブグループは、ファッション誌読者

層間の比較対照という仮説確認の厳密さを保つため、ファッション誌を 1 冊も読んでいない人びとは除外する。

表1 ファッション誌個別各誌読者層の同質傾向(知見の要約)

クラスター	個別誌名	ケース数	同質傾向	読書率のピーク学年	
ストリート系	S SC	『PS』	26	◎	高校三年生
		『SEDA』	21	◎	高校三年生
		『Soup.』	48	○	高校三年生
		『mini』	16	○	高校三年生
		『JILLE』	15	◎	高校二年生
		『Zipper』	35	○	高校三年生
カジュアル系	C	『CUTiE』	24	○	高校一年生
		『non-no』	110		高校三年生
		『mina』	37	◎	高校三年生
お姉系	N	『ViVi』	38	○	高校三年生
		『JJ』	20	◎	高校三年生
		『CanCam』	54	○	高校二年生
		『Ray』	16	◎	高校三年生
ギャル系	G GN	『PINKY』	40	○	高校三年生
		『egg』	30	○	高校一年生
		『Ranzuki』	34	◎	高校一年生
		『Popteen』	92	◎	高校一年生
		『Cawaii!』	38	◎	高校二年生
		『S cawaii!』	13	◎	高校三年生
ミドルティーン系	M	『小悪魔ageha』	21	◎	高校一年生
		『Hana☆chu』	57		中学二年生
ローティーン系	L ML	『SEVENTEEN』	130		中学二年生
		『ピチレモン』	60		中学一年生
		『ラブベリー』	42		中学一年生
		『ニコ☆プチ』	16	x	小学五年生
		『nicola』	54	x	中学一年生

以上の手順に従って、前述のクラスター分析にて登場した順に、『PS』から『nicola』に至るまでの 26 誌について、個別に同質指数を算出した(紙幅の制約上掲載割愛)。これらの知見を要約したのが表 1 である。先述の規準に基づき、何れか 1 箇の指数が 150 以上となり同質的である時、当該誌読者層は同質的と判定され、表 1 では○をもって示すことにする。2 箇以上の指数が同質的である時、当該誌読者層は頗る同質的と判定され、◎をもって示すことにする。次に、何れか 1 箇以上の指数が 67 以下となり非同質的である時、当該誌読者層は非同質的と判定され、×をもって示すことにする。最後に、以上の条件を何れも満たさない時は、どちらでもないと判定し、無印とする。

表 1 筆頭の『PS』は「メイク時間」の同質指数が 162、「ヘアカラー・ブリーチ頻度」の同質指数が 266、「コスチューム支出」の同質指数が 108、「制服の脱構築」の同質指数が 97、4 つの同質指数の平均値が 159 である。従って、「メイク時間」ならびに「ヘアカラー・ブリーチ頻度」、加えて全体の平均値といった併せて 3 箇の指数が 150 以上であり、『PS』読者層は頗る同質的であるといえよう。従って、表 1 には◎が記されることになる。

同様の判定を残りの 25 誌全てについても

行なった。その結果、『PS』『SEDA』『JILLE』『mina』『JJ』『Ray』『Ranzuki』『Popteen』『Cawaii!』『S cawaii!』『小悪魔 ageha』の計 11 誌の読者層が各々頗る同質的と判定された。『Soup.』『mini』『Zipper』『CUTiE』『ViVi』『CanCam』『PINKY』『egg』の計 8 誌の読者層が各々同質的と判定された。頗る同質的と同質的を併せれば、都合、26 誌の 73.08%を占める 19 誌の個別各誌読者層が広義での同質的と判定されたことになる。次に、『ニコ☆プチ』『nicola』の計 2 誌が非同質的と判定された。最後に、『non-no』『Hana ☆chu』『SEVENTEEN』『ピチレモン』『ラブベリー』の 5 誌がどちらでもない判定された。

ファッション誌 26 誌の 7 割以上である 19 誌の個別各誌読者層が同質的であることを受けて、作業仮説 B(読者層同質傾向)「ある一つのファッション誌を支持する読者層は、「メイク時間」「ヘアカラー・ブリーチ頻度」「コスチューム支出」「制服の脱構築」において似通っており、同質傾向を示す」は概ね確認されたと見做しても差し支えないだろう。

④作業仮説 C(「ファッション系統」再現)とその確認

ここでは、作業仮説 A(マス媒体分類)によって弁別されたファッション誌群、則ち、各クラスターに属している複数のファッション誌読者層が総体として類似した傾向を有しているのか否かを確認する。その際に、以下に説明する作業仮説 C(「ファッション系統」再現)においては、分析対象として、仮説本来の意図に沿うため、個別各誌読者層内部における同質傾向が十分に確認されたストリート系(S)、お姉系(N)、ギャル系(G)の計 18 誌のみを扱うこととする。

作業仮説 C(「ファッション系統」再現)「メイク時間」「ヘアカラー・ブリーチ頻度」「コスチューム支出」「制服の脱構築」に関して、その内部同質性が確認された個別各誌読者層は、ストリート系(S)、お姉系(N)、ギャル系(G)毎で総体として似通っており、類似した傾向を示す。そして、ファッション誌個別各誌読者層の個人属性から合成されたファッション誌アグリゲートデータに基づく統計的分類によって「ファッション系統」は再現される。

ストリート系(S)、お姉系(N)、ギャル系(G)18 誌からなる個別各誌読者層の「メイク時間」「ヘアカラー・ブリーチ頻度」「コスチューム支出」「制服の脱構築」のプロフィールをファッション誌自体の属性としてアグリゲートデータに合成変換し、ここから再度

クラスターを析出してみよう。用いる指標は、学年で統制した偏相関係数の値である。

「メイク時間」「ヘアカラー・ブリーチ頻度」「コスチューム支出」「制服の脱構築」との偏相関係数の値を、18 誌、則ち、N=18 のファッション誌アグリゲートデータ各ケース各変数における変数値とし、これら 4 変数間の平方ユークリッド距離による近接行列を用いて、群間平均連結法に基づき作図したものが、「ファッション系統」の再現 dendrogram である(紙幅の制約上掲載割愛)。ここから得られる知見が、作業仮説 A(マス媒体分類)によって得られた図 1 の初期クラスターの構造と一致していれば、正に「ファッション系統」が再現されたことになる。

第一に、『Ray』に『Cawaii!』が最近接し、それに『PINKY』が繋がり、『JJ』と『CanCam』からなる小さなクラスターが合流した cluster#7 が確認された。ここには、初期クラスターにおいて、お姉系(N)に分類された『JJ』『CanCam』『Ray』『PINKY』といったファッション誌 4 誌が含まれており、これを cluster#7 お姉系(N')と命名する。

第二に、『PS』に『CUTiE』が最近接し、それに『mini』が繋がった小さなクラスターと、『Soup.』に『Zipper』が近接し、それに『SEDA』が繋がり、『JILLE』が連なっているもう 1 つの小さなクラスターが合流した cluster#8 が確認された。ここには、初期クラスターにおいて、ストリート系(S)に分類された『PS』『SEDA』『Soup.』『mini』『JILLE』『Zipper』『CUTiE』といった 7 誌が全て含まれており、これを cluster#8 ストリート系(S')と命名する。

第三に、『ViVi』に『Popteen』が近接した小さなクラスターに、『egg』と『S cawaii!』が核となり、『小悪魔 ageha』が繋がった小さなクラスターが合流し、そこに『Ranzuki』が連なった cluster#9 が確認された。ここには、初期クラスターにおいて、ギャル系(G)に分類された『egg』『Ranzuki』『Popteen』『S cawaii!』『小悪魔 ageha』といった 5 誌が含まれており、これを cluster#9 ギャル系(G')と命名する。

以上、アグリゲートデータの水準では、cluster#7 お姉系(N')、cluster#8 ストリート系(S')、cluster#9 ギャル系(G')といった 3 群に 18 誌のファッション誌が分類されることが確認された。これらの内訳を、作業仮説 A(マス媒体分類)における初期クラスターと改めて照合したのが表 2 である。

第一に、ストリート系(S)(S')については、『PS』『SEDA』『Soup.』『mini』『JILLE』『Zipper』『CUTiE』7 誌全てが双方に含まれており、完全一致をみた。正判別数と誤判別数の和を分母とし、正判別数を分子とした再現率は当然のことながら 100.00%を示す。

ファッション誌個別各誌の重複読書に基づく分類と、個別各誌読者層の同質傾向の確認を経て、ファッション誌総体というアグリゲート水準での分類が一致することは、ストリート系(S) (S')と命名されるべき「ファッション系統」が個別各誌読者層においても、それらが全て含まれるファッション誌総体においても、つまり個人と社会の双方の水準においてその存在の確証が得られたことを意味する。

表2 「ファッション系統」に係わる初期クラスターと再現クラスターの比較 N=18

初期クラスター	誌名	ファッション誌アグリゲートデータに基づく再現クラスター	正判別 A	誤判別 B	再現率 R=A/(A+B)	
ストリート系 S	『PS』	『PS』	ストリート系 S'	7	0	100.00%
	『SEDA』	『SEDA』				
	『Soup』	『Soup』				
	『mini』	『mini』				
	『LILLE』	『LILLE』				
	『Zipper』	『Zipper』				
お姉系 N	『CUTiE』	『CUTiE』	お姉系 N'	4	1	80.00%
	『ViVi』	『Cawaii!』				
	『JJ』	『JJ』				
	『CanCam』	『CanCam』				
	『Ray』	『Ray』				
	『PINKY』	『PINKY』				
ギャル系 G	『egg』	『egg』	ギャル系 G'	5	1	83.33%
	『Ranzuki』	『Ranzuki』				
	『Popteen』	『Popteen』				
	『Cawaii!』	『ViVi』				
	『S cawaii!』	『S cawaii!』				
	『小悪魔ageha』	『小悪魔ageha』				

第二に、お姉系(N) (N')については、『JJ』『CanCam』『Ray』『PINKY』4誌が双方に含まれており、再現率は80.00%を示した。誤判別は初期クラスターにおける『ViVi』が抜け落ち、代わりに『Cawaii!』が再現クラスターに含まれた1件である。初期クラスターにおいて、cluster#34 ギャル・お姉系(GN)という大規模クラスターに包含される両誌とはいえども、厳密には誤判別に相違ない。しかしながら、構成要素の過半である5誌中4誌が含まれている再現率80.00%は決して低くない値だ。概ね、お姉系についても「ファッション系統」は、個別各誌読者層においても、それらが全て含まれるファッション誌総体においても、ストリート系(S) (S')と同様に、個人と社会の双方の水準においてその存在の確証が得られたと考えて良いだろう。

第三に、ギャル系(G) (G')については、『egg』『Ranzuki』『Popteen』『S cawaii!』『小悪魔 ageha』5誌が双方に含まれており、お姉系(N) (N')に較べて若干高めの再現率83.33%を示した。誤判別はお姉系(N) (N')との対偶関係にあり、初期クラスターにおける『Cawaii!』が抜け落ち、代わりに『ViVi』が再現クラスターに含まれた1件である。構成要素の大半である6誌中5誌が含まれている再現率83.33%は充分高い値といえよう。ギャル系についても「ファッション系統」は、個別各誌読者層においても、それらが全て含まれるファッション誌総体においても、ストリート系(S) (S')ならびにお姉系(N) (N')と同様に、個人と社会の双方の水準においてその存在の確証が得られた。

更に、全体を通して再現率は88.89%であ

り、9割に肉薄する値を示した。ここに、作業仮説C(「ファッション系統」再現)「メイク時間」「ヘアカラー・ブリーチ頻度」「コスチューム支出」「制服の脱構築」に関して、その内部同質性が確認された個別各誌読者層は、ストリート系(S)、お姉系(N)、ギャル系(G)毎で総体として似通っており、類似した傾向を示す。そして、ファッション誌個別各誌読者層の個人属性から合成されたファッション誌アグリゲートデータに基づく統計的分類によって「ファッション系統」は再現される」は確認されたと判断を下す。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

栗田宣義(2008)「女性ファッション誌の読書率」『武蔵大学総合研究所紀要』第17号 31-64頁(査読なし)

栗田宣義(2009)「「ファッション系統」の計量社会学序説」『武蔵大学総合研究所紀要』第18号 1-31頁(査読なし)

〔学会発表〕(計0件)

該当なし

〔図書〕(計0件)

該当なし

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

該当なし

取得状況(計0件)

該当なし

〔その他〕

該当なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

栗田 宣義 (KURITA NOBUYOSHI)

武蔵大学・社会学部・教授

研究者番号：10205198

(2)研究分担者

該当なし

(3)連携研究者

該当なし